

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成21年12月28日
【四半期会計期間】	第37期第3四半期(自平成21年8月21日至平成21年11月20日)
【会社名】	株式会社コックス
【英訳名】	COX CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 小柳津 進
【本店の所在の場所】	東京都江東区新大橋一丁目8番11号
【電話番号】	03(5600)3190(代)
【事務連絡者氏名】	経理部長 細川 武志
【最寄りの連絡場所】	東京都江東区新大橋一丁目8番11号
【電話番号】	03(5600)3190(代)
【事務連絡者氏名】	経理部長 細川 武志
【縦覧に供する場所】	株式会社ジャスダック証券取引所 (東京都中央区日本橋茅場町一丁目5番8号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

連結経営指標等

回次		第37期 第3四半期連結 累計期間	第37期 第3四半期連結 会計期間	第36期
会計期間		自 平成21年 2月21日 至 平成21年 11月20日	自 平成21年 8月21日 至 平成21年 11月20日	自 平成20年 2月21日 至 平成21年 2月20日
売上高	(千円)	12,760,183	3,913,924	
経常損失	(千円)	320,812	95,692	
四半期純損失	(千円)	722,838	188,177	
純資産額	(千円)		8,647,648	
総資産額	(千円)		12,292,568	
1株当たり純資産額	(円)		722.89	
1株当たり四半期 純損失	(円)	60.45	15.74	
潜在株式調整後 1株当たり四半期 純利益	(円)			
自己資本比率	(%)		70.3	
営業活動による キャッシュ・フロー	(千円)	1,089,335		
投資活動による キャッシュ・フロー	(千円)	228,622		
財務活動による キャッシュ・フロー	(千円)	2,176		
現金及び現金同等物の 四半期末残高	(千円)		2,022,538	
従業員数	(名)		382	

(注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2 本報告書の売上高・仕入高等は、特に記載のない限り、消費税等抜きで記載しております。

3 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失を計上しているため記載しておりません。

4 第37期第1四半期連結累計(会計)期間より連結財務諸表を作成しております。なお、第36期については、連結財務諸表を作成していないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結会計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

3 【関係会社の状況】

当第3四半期連結会計期間において、重要な関係会社の異動はありません。

4 【従業員の状況】

(1) 連結会社における状況

平成21年11月20日現在

従業員数(名)	382(604)
---------	----------

(注) 1 従業員数は就業人員であり、当社グループ外からの受入出向者を含んでおり、当社グループ外への出向者を除いております。

2 従業員数欄の()は外書で、パートタイマーの当第3四半期連結会計期間における平均雇用人員（1人当たり1日8時間換算）であります。

(2) 提出会社の状況

平成21年11月20日現在

従業員数(名)	374(604)
---------	----------

(注) 1 従業員数は就業人員であり、他社からの受入出向者を含んでおり、他社への出向者を除いております。

2 従業員数欄の()は外書で、パートタイマーの当第3四半期会計期間における平均雇用人員（1人当たり1日8時間換算）であります。

第2 【事業の状況】

1 【生産、受注及び販売の状況】

当社グループは、衣料品小売業のみの単一セグメントであるため、生産、受注及び販売の状況につきましては、当社の事業区分ごとに記載しております。

(1) 事業別売上状況

当第3四半期連結会計期間における事業別売上状況は、次のとおりであります。

事業別	売上高(千円)
I k k a	2,270,869
C O X	1,643,055
売上高合計	3,913,924
その他の営業収入	29,620
合計	3,943,545

(注) 1 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

2 事業別欄の「I k k a」には当社ブランドの「I k k a」と「CARDIOGRAPH」を含んでおり、「C O X」には当社ブランドの「C O X」、「C O X f a m」、「C O X+V」及び「PEDESTRIAN PARADISE」を含んでおります。

3 当社ブランドの「I k k a」はリージョナルショッピングセンター向け業態、「CARDIOGRAPH」はメンズ都市型業態、「C O X」及び「C O X f a m」はコミュニティショッピングセンター向け業態、「C O X+V」はネイバーフッドショッピングセンター向け業態、「PEDESTRIAN PARADISE」はヤング向け業態であります。

(2) 事業別仕入状況

当第3四半期連結会計期間における事業別仕入状況は、次のとおりであります。

事業別	仕入高(千円)
I k k a	1,355,148
C O X	883,948
合計	2,239,096

(注) 1 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

2 事業別欄の「I k k a」には当社ブランドの「I k k a」と「CARDIOGRAPH」を含んでおり、「C O X」には当社ブランドの「C O X」、「C O X f a m」、「C O X+V」及び「PEDESTRIAN PARADISE」を含んでおります。

3 当社ブランドの「I k k a」はリージョナルショッピングセンター向け業態、「CARDIOGRAPH」はメンズ都市型業態、「C O X」及び「C O X f a m」はコミュニティショッピングセンター向け業態、「C O X+V」はネイバーフッドショッピングセンター向け業態、「PEDESTRIAN PARADISE」はヤング向け業態であります。

2 【事業等のリスク】

当第3四半期連結会計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

4 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績の分析

当第3四半期連結会計期間における我が国経済は、「アジア向けを中心とした輸出増加」や「経済対策効果による個人消費の持ち直し」といった一部で明るさが見られたものの、失業率が高水準にあるなど依然として厳しい状況にありました。

このような環境の中、当社は利益創出のできる企業体質への転換に向け、投入人時管理の徹底や全社的経費削減などによりコスト構造を改革すると共に、新規出店物件の厳選・縮小、不採算店舗の閉店加速に継続的に取り組んでまいりました。

営業・商品面では、レディース部門の平日の売上アップやショッピングセンターの空所を活用した催事に取り組みました。また、生産工場の集中化等による値入率の改善、欠品率改善や売場の陳列力強化による買上点数アップに注力いたしました。

店舗面では、新たに「I k k a」を1店舗開設し、3店舗（「I k k a」1店舗、「C O X」2店舗）を閉鎖いたしました。

販売費及び一般管理費は、店舗別投入人時数の見直しや本社人員削減による人件費の削減、販促手段の見直しによる販売促進費の削減、店舗の賃借契約内容の見直しによる家賃の削減等のコスト構造改革に取り組んだ結果、23億25百万円と前年を大きく下回りました。

しかしながら、このような収益力回復策も厳しい消費環境を打開するには至らず、既存店売上高前年比は85.6%に止まり、営業収益39億43百万円、売上総利益21億61百万円という厳しい結果となりました。

これにより、損益面では営業損失1億34百万円、経常損失は95百万円、四半期純損失は1億88百万円となりました。

(注) 連結財務諸表の作成初年度であるため、前第3四半期との比較の記載は行っておりません。

(2)財政状態の分析

資産

当第3四半期連結会計期間末の総資産は122億92百万円となりました。主な内容は、現金及び預金8億22百万円、たな卸資産24億25百万円、関係会社預け金12億円、有形固定資産9億62百万円、投資有価証券24億56百万円、差入保証金33億36百万円などです。

負債

当第3四半期連結会計期間末の負債は36億44百万円となりました。主な内容は、支払手形及び買掛金18億78百万円、繰延税金負債2億84百万円などです。

純資産

当第3四半期連結会計期間末の純資産は86億47百万円となりました。主な内容は、資本金45億3百万円、資本剰余金48億4百万円、その他有価証券評価差額金4億38百万円などです。

(注)連結財務諸表の作成初年度であるため、前事業年度末残高との比較分析については記載していません。

(3)キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という)は、20億22百万円となり、第2四半期連結会計期間末より27百万円の増加となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期連結会計期間において営業活動の結果減少した資金は、1億24百万円となりました。その主な増加の内訳は、非資金費用である減価償却費1億2百万円、仕入債務の増加額4億円などです。主な減少の内訳は、税金等調整前四半期純損失1億6百万円、たな卸資産の増加額4億86百万円などです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期連結会計期間において投資活動の結果増加した資金は、99百万円となりました。その主な増加の内訳は、差入保証金の回収による収入1億85百万円などです。主な減少の内訳は、有形固定資産の取得による支出81百万円などです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期連結会計期間において財務活動の結果減少した資金は、1百万円となりました。その内訳は自己株式の取得による支出1百万円です。

(4)事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結会計期間において、当連結会社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに発生した課題はありません。

(5)研究開発活動

該当事項はありません。

第3 【設備の状況】

(1) 主要な設備の状況

当第3四半期連結会計期間において、主要な設備に重要な異動はありません。

(2) 設備の新設、除却等の計画

第2四半期連結会計期間末に計画中であった設備の新設、重要な拡充若しくは改修のうち、当第3四半期連結会計期間に完成したものは次のとおりであります。

設備名	所在地	区分	売場面積 (㎡)	投資額 (千円)	完成年月	業態	備考
ララガーデン長町店	仙台市太白区	新設	293	60,950	平成21年10月	Ikka	賃借
新設店舗小計			293	60,950			
改装店舗小計		改装		5,811	当第3四半期中		
合計				66,761			

(注) 1 投資額には差入保証金を含んでおります。

2 業態欄の「Ikka」は当社の業態区分を表しており、「Ikka」はリージョナルショッピングセンター向けの業態であります。

当第3四半期連結会計期間において新たに確定した重要な設備の新設、除却等はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	26,195,000
計	26,195,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成21年11月20日)	提出日現在 発行数(株) (平成21年12月28日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	12,969,439	12,969,439	ジャスダック 証券取引所	単元株式数 1,000株
計	12,969,439	12,969,439		

(2) 【新株予約権等の状況】

平成19年5月17日の定時株主総会決議および平成20年4月2日の取締役会決議により発行した新株予約権は、次のとおりであります。

	第3四半期会計期間末現在 (平成21年11月20日)
新株予約権の数(個)	14
新株予約権のうち自己新株予約権の数	
新株予約権の目的となる株式の種類	当社普通株式 単元株式数1,000株
新株予約権の目的となる株式の数(株)	14,000 (注)1
新株予約権の行使時の払込金額(円)	1
新株予約権の行使期間	平成20年5月21日～ 平成35年5月20日
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 341 資本組入額 171 (注)2
新株予約権の行使の条件	新株予約権を割り当てられた者は、権利行使時においても当社の取締役又は監査役の地位にあることを要する。ただし、当社の取締役及び監査役を退任した場合であっても、退任日から5年以内に限って権利行使ができるものとする。 新株予約権については、その数の全数につき一括してこれを行使することとし、これを分割して行使することはできないものとする。
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権を譲渡し、又はこれを担保に供することはできない。
代用払込みに関する事項	
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	

- (注) 1 当社が株式分割または株式併合を行う場合、次の算式により目的となる株式の数を調整するものとする。ただし、かかる調整は、新株予約権のうち、当該時点で行使されていない新株予約権の目的となる株式の数について行われ、調整の結果生じる1株未満の端数については、これを切り捨てるものとする。
調整後株式数 = 調整前株式数 × 分割(または併合)の比率
当社が他社と吸収合併もしくは新設合併を行い新株予約権が承継される場合、または当社が新設分割もしくは吸収分割を行う場合、その他これらの場合に準じ株式数の調整を必要とする場合、当社は必要と認める株式数の調整を行う。
- 2 新株予約権の行使による株式の発行については、自己株式を充当する場合には、資本組入れは行わないものとする。

(3) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成21年8月21日～ 平成21年11月20日		12,969,439		4,503,148		2,251,574

(5) 【大株主の状況】

当第3四半期会計期間において、大株主の異動は把握しておりません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の議決権の状況については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成21年8月20日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成21年8月20日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,012,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 11,781,000	11,781	
単元未満株式	普通株式 176,439		
発行済株式総数	12,969,439		
総株主の議決権		11,781	

(注)「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式4株が含まれております。

【自己株式等】

平成21年8月20日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社コックス	東京都江東区新大橋 一丁目8番11号	1,012,000		1,012,000	7.80
計		1,012,000		1,012,000	7.80

(注)平成21年11月20日現在、当社は1,013,496株の自己株式を保有しております。

2 【株価の推移】

【当該四半期累計期間における月別最高・最低株価】

月別	平成21年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
最高(円)	400	408	405	399	396	373	380	355	342
最低(円)	360	371	399	378	373	355	340	315	320

(注) 1 ジャスダック証券取引所における株価を記載しております。

2 株価は、毎月1日より月末までのものであります。

3 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期報告書提出日までの役員の異動は、次のとおりであります。

(1) 新任役員

該当事項はありません。

(2) 退任役員

該当事項はありません。

(3) 役職の異動

新役名及び職名	旧役名及び職名	氏名	異動年月日
取締役COX事業部長 兼COX事業部商品部長	取締役COX事業部長	澤西 涉	平成21年9月21日
取締役管理統括部長 兼人事総務部長	取締役管理統括部長	高見 明	平成21年9月21日

第5 【経理の状況】

1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、当連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成21年8月21日から平成21年11月20日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成21年2月21日から平成21年11月20日まで)は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成20年8月7日 内閣府令第50号)附則第7条第1項第5号のただし書きにより、改正後の四半期連結財務諸表規則を適用しております。

また、当第3四半期連結会計期間(平成21年8月21日から平成21年11月20日まで)及び当第3四半期連結累計期間(平成21年2月21日から平成21年11月20日まで)は連結財務諸表の作成初年度であるため、前連結会計年度の連結財務諸表については記載しておりません。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成21年8月21日から平成21年11月20日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成21年2月21日から平成21年11月20日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

当第3四半期連結会計期間末
(平成21年11月20日)

資産の部	
流動資産	
現金及び預金	822,538
受取手形及び売掛金	31,485
売上預け金	363,637
たな卸資産	3 2,425,130
未収入金	363,568
関係会社預け金	2 1,200,000
その他	123,540
貸倒引当金	2,625
流動資産合計	5,327,276
固定資産	
有形固定資産	
建物（純額）	880,170
その他（純額）	82,205
有形固定資産合計	1 962,376
無形固定資産	
無形固定資産	61,440
投資その他の資産	
投資有価証券	2,456,533
差入保証金	3,336,220
その他	166,046
貸倒引当金	17,326
投資その他の資産合計	5,941,474
固定資産合計	6,965,291
資産合計	12,292,568
負債の部	
流動負債	
支払手形及び買掛金	1,878,922
未払法人税等	100,511
賞与引当金	161,032
役員業績報酬引当金	25,241
店舗閉鎖損失引当金	30,010
ポイント引当金	103,102
その他	633,067
流動負債合計	2,931,886
固定負債	
退職給付引当金	338,237
繰延税金負債	284,427
その他	90,368
固定負債合計	713,033
負債合計	3,644,920

(単位：千円)

当第3四半期連結会計期間末
(平成21年11月20日)

純資産の部	
株主資本	
資本金	4,503,148
資本剰余金	4,804,632
利益剰余金	649,403
自己株式	448,160
株主資本合計	8,210,218
評価・換算差額等	
その他有価証券評価差額金	438,821
為替換算調整勘定	6,151
評価・換算差額等合計	432,670
新株予約権	4,760
純資産合計	8,647,648
負債純資産合計	12,292,568

(2)【四半期連結損益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年2月21日 至平成21年11月20日)
売上高	12,760,183
売上原価	5,973,696
売上総利益	6,786,487
その他の営業収入	89,961
営業総利益	6,876,449
販売費及び一般管理費	7,298,609
営業損失()	422,160
営業外収益	
受取利息	3,208
受取配当金	85,193
仕入割引	7,063
その他	8,871
営業外収益合計	104,336
営業外費用	
為替差損	2,646
レジ現金精算損	151
商品盗難損失	110
その他	81
営業外費用合計	2,988
経常損失()	320,812
特別利益	
店舗閉鎖損失引当金戻入額	19,333
貸倒引当金戻入額	6,078
固定資産売却益	500
その他	260
特別利益合計	26,171
特別損失	
固定資産除却損	22,251
減損損失	231,784
店舗閉鎖損失引当金繰入額	17,546
その他	13,915
特別損失合計	285,498
税金等調整前四半期純損失()	580,139
法人税、住民税及び事業税	142,698
法人税等合計	142,698
四半期純損失()	722,838

【第3四半期連結会計期間】

(単位：千円)

当第3四半期連結会計期間 (自平成21年8月21日 至平成21年11月20日)	
売上高	3,913,924
売上原価	1,752,287
売上総利益	2,161,637
その他の営業収入	29,620
営業総利益	2,191,257
販売費及び一般管理費	2,325,572
営業損失()	134,314
営業外収益	
受取利息	836
受取配当金	27,156
為替差益	3,298
仕入割引	2,027
その他	5,399
営業外収益合計	38,719
営業外費用	
レジ現金精算損	79
その他	17
営業外費用合計	97
経常損失()	95,692
特別利益	
店舗閉鎖損失引当金戻入額	18,759
固定資産売却益	500
貸倒引当金戻入額	938
特別利益合計	20,197
特別損失	
固定資産除却損	6,067
減損損失	1,088
店舗閉鎖損失引当金繰入額	17,546
その他	6,159
特別損失合計	30,862
税金等調整前四半期純損失()	106,358
法人税、住民税及び事業税	81,819
法人税等合計	81,819
四半期純損失()	188,177

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

当第3四半期連結累計期間 (自平成21年2月21日 至平成21年11月20日)	
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純損失()	580,139
減価償却費	313,562
減損損失	231,784
賞与引当金の増減額(は減少)	114,349
役員業績報酬引当金の増減額(は減少)	25,241
店舗閉鎖損失引当金の増減額(は減少)	23,245
退職給付引当金の増減額(は減少)	41,453
貸倒引当金の増減額(は減少)	19,087
ポイント引当金の増減額(は減少)	49,039
受取利息及び受取配当金	88,401
為替差損益(は益)	2,646
有形固定資産売却損益(は益)	500
有形固定資産除却損	22,251
売上債権の増減額(は増加)	310,861
たな卸資産の増減額(は増加)	137,357
仕入債務の増減額(は減少)	713,776
その他	175,271
小計	1,071,677
利息及び配当金の受取額	89,204
法人税等の支払額	62,395
その他	44,467
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,089,335
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の売却による収入	500
有形固定資産の取得による支出	456,261
差入保証金の差入による支出	151,497
差入保証金の回収による収入	412,079
その他	33,443
投資活動によるキャッシュ・フロー	228,622
財務活動によるキャッシュ・フロー	
自己株式の取得による支出	2,178
ストックオプションの行使による収入	2
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,176
現金及び現金同等物に係る換算差額	2,655
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	1,322,789
現金及び現金同等物の期首残高	3,345,327
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,022,538

【四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更】

該当事項はありません。

なお、当社は第1四半期連結会計期間より連結財務諸表を作成しております。四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項は、以下のとおりであります。

	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年2月21日 至 平成21年11月20日)
1 連結の範囲に関する事項	<p>連結子会社の数 1社 連結子会社名 COX(BEIJING)TRADE CO.,LTD 第1四半期連結会計期間より、COX(BEIJING)TRADE CO.,LTDは重要性が増したため、連結の範囲に含めております。</p>
2 持分法の適用に関する事項	該当事項はありません。
3 連結子会社の四半期決算日に関する事項	<p>COX(BEIJING)TRADE CO.,LTDの第3四半期決算日は9月30日であります。 四半期連結財務諸表の作成にあたっては、同日現在の四半期財務諸表を利用し、四半期連結決算日との間に生じた重要な取引については連結上必要な調整を行っております。</p>
4 会計処理基準に関する事項 (1)重要な資産の評価基準及び評価方法 (2)重要な減価償却資産の減価償却の方法	<p>有価証券 その他有価証券 時価のあるもの 四半期連結会計期間末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は、移動平均法により算定) 時価のないもの 移動平均法による原価法 たな卸資産 商品 移動平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定) 貯蔵品 最終仕入原価法 有形固定資産 経済的耐用年数に基づく定額法 各資産別の経済的耐用年数として以下の年数を採用しております。 建物 (営業店舗) 20年 (建物附属設備) 3年～8年 構築物 10年～20年 器具備品 3年～20年 無形固定資産 定額法 なお、ソフトウェア(自社利用分)については、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法 長期前払費用 契約期間等に応じた均等償却</p>

当第3四半期連結累計期間 (自平成21年2月21日 至 平成21年11月20日)	
(3)重要な引当金の計上基準	<p>貸倒引当金 債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。</p> <p>賞与引当金 従業員賞与の支給に備えるため、支給見込額の当四半期連結会計期間対応分を計上しております。</p> <p>役員業績報酬引当金 役員に対して支給する業績報酬の支出に備えるため、支給見込額の当四半期連結会計期間対応分を計上しております。</p> <p>店舗閉鎖損失引当金 当四半期連結会計期間以降に閉店することを決定した店舗について、閉店に伴い発生する損失に備えるため、合理的に見込まれる中途解約違約金及び原状回復費等の閉店関連損失見込額を計上しております。</p> <p>ポイント引当金 自社ポイントカード制度により発行される商品お買物券の利用に備えるため、将来利用されると見込まれる額を計上しております。</p> <p>退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当四半期連結会計期間末において発生していると認められる額を計上しております。 数理計算上の差異については、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定額法により、翌連結会計年度から費用処理することとしております。</p>
(4)重要なリース取引の処理方法	リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借処理に準じた会計処理によっております。
(5)その他四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項	消費税等の会計処理方法 税抜方式によっております。
5 連結子会社の資産及び負債の評価に関する事項	全面時価評価法を採用しております。
6 四半期連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲	手許現金、要求払預金及び取得日から3ヶ月以内に満期日の到来する流動性の高い、容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない短期的な投資からなっております。

【簡便な会計処理】

当第3四半期連結累計期間 (自平成21年2月21日 至 平成21年11月20日)	
1 たな卸資産の評価方法	当第3四半期連結会計期間末のたな卸高の算出に関しては、実地たな卸を省略し、当第2四半期連結会計期間末の実地たな卸高を基礎として合理的な方法により算定する方法によっております。 また、たな卸資産の簿価切下げに関しては、収益性の低下が明らかなものについてのみ正味売却価額を見積り、簿価切下げを行う方法によっております。
2 法人税等並びに繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法	法人税等の納付税額の算定に関しては、加味する加減算項目や税額控除項目を重要なものに限定する方法によっております。 繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前事業年度末以降に経営環境等、かつ、一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められる場合には、前事業年度において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用する方法によっております。また、前事業年度末以降に経営環境等、かつ、一時差異等の発生状況に著しい変化が認められた場合には、前事業年度において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングに当該著しい変化の影響を加味したものを利用する方法によっております。

【四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理】

該当事項はありません。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

当第3四半期連結会計期間末 (平成21年11月20日)	
1 有形固定資産の減価償却累計額	2,268,014千円
2 関係会社預け金	イオン株式会社との金銭消費寄託契約に基づく寄託運用預け金であります。
3 たな卸資産の内訳	
商品	2,415,094千円
貯蔵品	10,036

(四半期連結損益計算書関係)

第3四半期連結累計期間

当第3四半期連結累計期間 (自平成21年2月21日 至 平成21年11月20日)	
販売費及び一般管理費の主なもの	
従業員給与賞与	2,074,626千円
賞与引当金繰入額	161,032
地代家賃	1,852,834

第3四半期連結会計期間

当第3四半期連結会計期間 (自平成21年8月21日 至平成21年11月20日)	
販売費及び一般管理費の主なもの	
従業員給与賞与	556,258千円
賞与引当金繰入額	161,032
地代家賃	578,021

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間 (自平成21年2月21日 至平成21年11月20日)	
現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係	
現金及び預金	822,538千円
関係会社預け金 (寄託運用)	1,200,000
現金及び現金同等物	2,022,538

(株主資本等関係)

当第3四半期連結会計期間末(平成21年11月20日)及び当第3四半期連結累計期間(自平成21年2月21日至平成21年11月20日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当第3四半期 連結会計期間末
普通株式(株)	12,969,439

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当第3四半期 連結会計期間末
普通株式(株)	1,013,496

3 新株予約権等に関する事項

会社名	目的となる 株式の種類	目的となる株式の数 (株)	当第3四半期 連結会計期間末残高 (千円)
提出会社			4,760
連結子会社			
合計			4,760

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

該当事項はありません。

(2) 基準日が当連結会計年度の開始の日から当四半期連結会計期間末までに属する配当のうち、配当の効力発生日が当四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(リース取引関係)

所有権移転外ファイナンス・リース取引について通常の賃貸借取引に係る方法に準じて処理を行っておりますが、当四半期連結会計期間末におけるリース取引残高は前事業年度末に比べて著しい変動が認められないため、記載しておりません。

(有価証券関係)

当社グループの所有する有価証券は、企業集団の事業の運営において重要なものではありません。

(デリバティブ取引関係)

当社グループはデリバティブ取引を行っていないため、該当事項はありません。

(ストック・オプション等関係)

当社は、新株予約権方式によるストック・オプション制度を採用しておりますが、当四半期連結会計期間において付与が行われておりませんので、該当事項はありません。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

【事業の種類別セグメント情報】

当第3四半期連結会計期間(自平成21年8月21日至平成21年11月20日)及び当第3四半期連結累計期間(自平成21年2月21日至平成21年11月20日)

当社及び連結子会社の事業は、衣料品小売業の単一事業であります。従いまして、開示対象となるセグメントはありませんので、記載を省略しております。

【所在地別セグメント情報】

当第3四半期連結会計期間(自平成21年8月21日至平成21年11月20日)及び当第3四半期連結累計期間(自平成21年2月21日至平成21年11月20日)

全売上高に占める日本の割合が、90%を超えるため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

【海外売上高】

当第3四半期連結会計期間(自平成21年8月21日至平成21年11月20日)及び当第3四半期連結累計期間(自平成21年2月21日至平成21年11月20日)

海外売上高が連結売上高の10%未満のため、海外売上高の記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1 1株当たり純資産額

当第3四半期連結会計期間末 (平成21年11月20日)	
1株当たり純資産額	722.89円

(注) 1株当たり純資産額の算定上の基礎

項目	当第3四半期 連結会計期間末 (平成21年11月20日)
純資産の部の合計額(千円)	8,647,648
普通株式に係る純資産額(千円)	8,642,888
差額の主な内訳(千円)	
新株予約権	4,760
普通株式の発行済株式数(株)	12,969,439
普通株式の自己株式数(株)	1,013,496
1株当たり純資産額の算定に用いられた普通株式 の数(株)	11,955,943

2 1株当たり四半期純損失金額

第3四半期連結累計期間

当第3四半期連結累計期間 (自平成21年2月21日 至平成21年11月20日)	
1株当たり四半期純損失	60.45円
潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失を計上しているため記載しておりません。	

(注) 1株当たり四半期純損失金額の算定上の基礎

項目	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年2月21日 至平成21年11月20日)
四半期連結損益計算書上の四半期純損失(千円)	722,838
普通株式に係る四半期純損失(千円)	722,838
普通株主に帰属しない金額(千円)	
普通株式の期中平均株式数(株)	11,957,391
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株 当たり四半期純利益の算定に含まれなかった潜在 株式について前事業年度末から重要な変動がある 場合の概要	

第3四半期連結会計期間

当第3四半期連結会計期間 (自 平成21年8月21日 至 平成21年11月20日)	
1株当たり四半期純損失	15.74円
潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失を計上しているため記載しておりません。	

(注) 1株当たり四半期純損失金額の算定上の基礎

項目	当第3四半期連結会計期間 (自 平成21年8月21日 至 平成21年11月20日)
四半期連結損益計算書上の四半期純損失(千円)	188,177
普通株式に係る四半期純損失(千円)	188,177
普通株主に帰属しない金額(千円)	
普通株式の期中平均株式数(株)	11,956,770
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定に含まれなかった潜在株式について前事業年度末から重要な変動がある場合の概要	

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成21年12月18日

株式会社コックス
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 石橋 和男 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 美久羅 和美 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社コックスの平成21年2月21日から平成22年2月20日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成21年8月21日から平成21年11月20日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成21年2月21日から平成21年11月20日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社コックス及び連結子会社の平成21年11月20日現在の財政状態、同日をもって終了する第3四半期連結会計期間及び第3四半期連結累計期間の経営成績並びに第3四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。